

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語、算数、理科、児童質問調査)

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | | |
|------|----|---|
| ① 国語 | 27 | 人 |
| ② 算数 | 27 | 人 |
| ③ 理科 | 27 | 人 |

5 留意事項

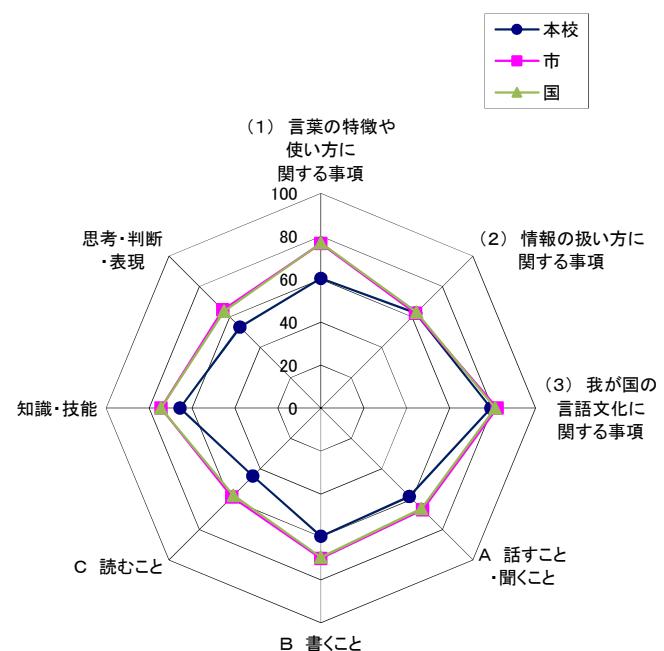
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	58.3	67.0	66.3
	B 書くこと	59.7	70.0	69.5
	C 読むこと	44.8	58.6	57.5
観点	知識・技能	65.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	53.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

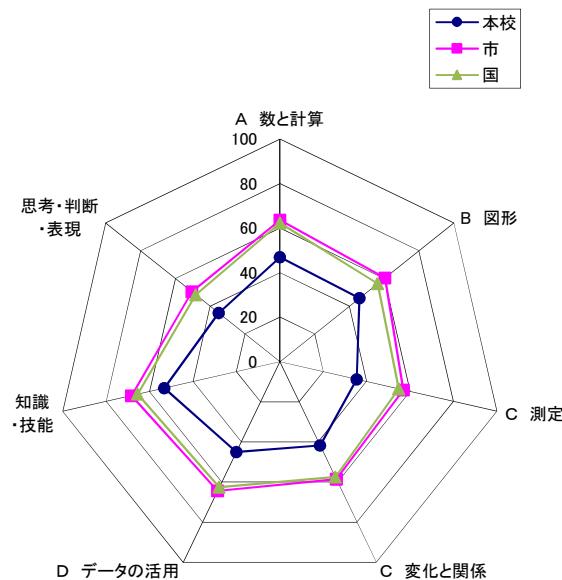
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの		●課題が見られるもの	
		今後の指導の重点		今後の指導の重点	
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は60.4パーセントで、市の平均より16.3ポイント上回った。国の平均より16.5ポイント低い。 ●漢字で「暑い」と回答する問題では、県の平均を23.7ポイント下回った。			・基本的な言葉の学習や漢字の練習を、授業の時間だけではなく、家庭学習でも取り入れ、確実に定着できるようにしていく。また、児童の状況に応じて、より発展的な学習に取り組めるように、個に応じた指導の充実を図る。	
(2) 情報の扱い方に関する事項	・平均正答率は62.5パーセントで、市の平均より0.1ポイント高い。国の平均より0.6ポイント低い。 ○話し合いの記録の書き表し方を説明したものを選択する問題の正答率は62.5%で、県の平均より0.5ポイント上回った。			・情報からどのような内容が書かれ、語句と語句との関係はどのように表されているのかについて確認しながら授業を進めていく。また、情報の中から適切な図表や語句を読み取り、活用していくことができるよう、引き続き指導していく。	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は79.2パーセントで、市の平均より2.9ポイント、国の平均より2.0ポイント低い。 ○無回答率は0%であった。			・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを、授業の中で触れたり、日常会話の中で話題にしたりして、自分で気付くことができるようしていく。 ・日常的に読書に親しみ、読書の記録の記入や家読、ビブリオバトルなどで、教師や友達同士で読んだ本の感想などを共有する時間を設けている。引き続き、読書することによって自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるよう、支援していく。	
A 話すこと・聞くこと	・平均正答率は58.3パーセントで、市の平均より8.7ポイント、国の平均より8.0ポイント低い。 ●インタビューの発言から適切な理由を選択する問題では、本校の平均正答率が45.8%で、県の平均よりも25.2%下回った。 ○インタビューの発言から、適切な目的を選択する問題では、本校の平均正答率が75.0%で、県の平均よりも6.3ポイント上回った。			・話合いやインタビューを行う際、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、相手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるように、授業の中で指導していく。 ・少人数の話合いや学級全体の意見交換の場を意図的に設定し、目的に応じた話合いができるように指導していく。	
B 書くこと	・平均正答率は59.7パーセントで、市の平均より10.3ポイント、国の平均より9.8ポイント低い。 ●問題に書かれてる調べたことを基に詳しく書く問題では、本校の平均正答率が45.8%で、県の平均を16.5ポイント下回った。			・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど書き表し方を工夫し、分かりやすい文章を書けるように今後も引き続き指導していく。 ・日頃から学校行事の感想などを文章に書き表す活動を多く取り入れることで、書くことへの抵抗を減らし、慣れさせていく。	
C 読むこと	・平均正答率は44.8パーセントで、市の平均より13.8ポイント、国の平均より12.7ポイント低い。 ●文章でまとめる問題では、本校の平均回答率が25%で、県の平均を34.0ポイント下回った。また、同じ問題で20.8%もの児童が、無解答となつた。			・複数の資料から自分で必要な情報を取捨選択し、読み手が理解できる文章でまとめられるように、授業の中で、やり方を示したり個別に支援していく。 ・より一層読書活動を推進して、読む力を高められるようにする。	

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	46.9	63.6	62.3
	B 図形	45.8	60.4	56.2
	C 測定	35.4	56.9	54.8
	C 変化と関係	41.7	58.6	57.5
	D データの活用	45.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	53.2	68.3	65.5
	思考・判断・表現	35.1	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

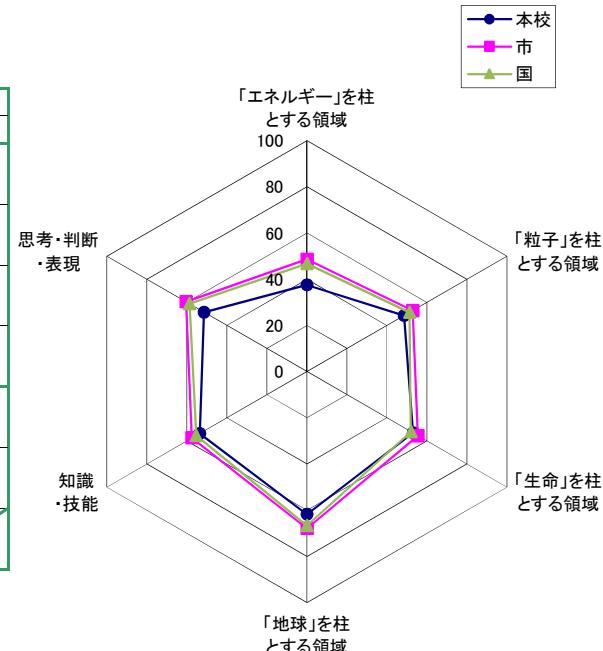
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は46.9パーセントで、市の平均より16.7ポイント、国の平均より15.4ポイント低い。 ○異分母の分数の加法の計算の問題では、正答率が県の平均より1.8ポイント上回った。 ●小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える問題では、正答率が県の平均より34.8ポイント下回った。 ●数直線上での、1の目盛りに着目し、分数を単位分の幾つ分として捉える問題では、正答率が県の平均より11.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則の混じった計算や分配法則等、計算のきまりを理解していない児童が一定数みられるため、児童のつまずきに配慮した教材を工夫し、基礎的な知識の定着を図る。 ・分母の異なる分数の足し算はできているが、数直線上に示された数を分数で書くことができていない。基準となる数を見いだし数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行なうながら理解を深めていく。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は58.6パーセントで、市の平均より14.6ポイント、国の平均より10.4ポイント低い。 ●基本图形に分割することができる图形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題では、平均正答率は県の平均より17.4ポイント下回った。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より13.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公式や图形の性質を再確認させる教材を活用したり、段階的に発展的な問題につながるような補充プリントを使用したりするなどし、習熟を図る。 ・图形の作図の学習では、TTを活用しながら、一人一人に対応する機会を増やし、個に応じた学習を進めていく。
C 測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は35.4パーセントで、市の平均より21.5ポイント、国の平均より19.4ポイント低い。 ●伴って変わるべき二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より26.7ポイント下回った。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より11.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述問題では、適切な説明の仕方が思いつかないため、無回答になる児童の割合が高い。取り組み易い教材を工夫し、目的に応じたデータを使って、その特徴や傾向を分析できるように支援していく。また、問題に対する結論について、分かりやすく説明するための手順を示しながら定着を図っていく。 ・ひょう量の違いなど、はかりの特徴を確認した上で、めもりを正しく読み取れるように定期的に問題に取り組ませ、抵抗感を少なくし、定着を図る。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は41.7パーセントで、市の平均より16.9ポイント、国の平均より15.8ポイント下回った。 ●伴って変わるべき二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より15.3ポイント低い。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より0.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準量や比較量を正確に捉えることが苦手な児童が一定数いるため、定期的に復習する機会を設けていく。 ・基礎的な内容の定着を図りつつ、生活場面と関連付けて、割合の意味を深く考える場面を意図的に設定していく。また、発展的な内容にも意図的に取り組ませていくことで、さらに理解を深めていく。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は45.0パーセントで、市の平均より19.4ポイント、国の平均より17.6ポイント低い。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より17.8ポイント下回った。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題では、平均正答率が県の平均より17.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から数値や項目間の関係を正確に読み取る問題では、変化の規則性を利用してより効率的に問題を解く活動に取り組ませる。また、発展的な内容にも取り組ませていくことで、さらに理解を深める。 ・記述問題では、適切な説明の仕方が思いつかないため、無回答になる児童の割合が高い。取り組みやすい教材を工夫し、目的に応じたデータを使って、その特徴や傾向を分析できるように支援していく。また、問題に対する結論について、分かりやすく説明するための手順を示しながら定着を図る。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	37.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	48.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	53.1	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	61.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	53.6	57.5	55.3
	思考・判断・表現	51.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は37.5パーセントで、市の平均を11.1ポイント、国の平均を9.2ポイント低い。 ○金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題においては、正答率は県の平均より3.8ポイント上回った。 ●乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、正答率は県の平均より24.6ポイント下回った。 ●電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く問題では、正答率は県の平均より11.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に電磁石や電気回路について、実験を通して「なぜそうなるのか」という因果関係を理解し、言葉で説明できるようにする。 ・実験結果をただ記録するだけでなく、その結果になった理由を深く考察し、自分の考えをもてるようにする。 ・正答率の低かった記述問題への対応力を強化し、根拠を含めた正確な文章で表現できるようにする。 	
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率48.6パーセントで、市の平均を4.2ポイント、国の平均を2.8ポイント低い。 ○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、県の平均を3.2ポイント上回った。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、県の平均を9.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の低かった結露など、身近な現象に焦点を当て、教科書で学んだ知識と関連付けて考えられるように指導する。 ・水の蒸発や水の結露など、教科書で学んだ知識が、海面水位の上昇のような地球規模の課題にどうつながるかを具体的に説明し、思考力を養う。 	
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率53.1パーセントで、市の平均を2.4ポイント下回り、国の平均を1.1ポイント高い。 ○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題では、県の平均を23.0ポイント上回った。 ●レタスの種子の発芽の結果から、気付きを基に、見いだした問題について書く問題では、県の平均を11.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ知識を、初めて扱うレタスの発芽条件のような応用的な場面でも活用し、自分で課題を見つけて解決する力を育てる。 ・顕微鏡の正しい操作方法など、基本的な実験技能を繰り返し練習させ、着実に身につけさせる。 	
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は61.8パーセントで、市の平均を6.1ポイント、国の平均を4.9ポイント低い。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、書く問題では、県の平均を11.4ポイント下回った。 ●水が陸から海へ流れいくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ問題では、県の平均を7.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験で得られたデータから、なぜそのような結果になったのかを論理的に考え、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・水は水蒸気になって空気中に含まれていることを図などを使って理解できるようにする。 	

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」と「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では、どちらも96.3%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、88.9%の児童が肯定的回答をした。友達関係だけではなく、学校行事や特別活動等を通して、下級生や学校、そして地域のために行動したいと感じられるようになった児童が増えてきたと考えられる。今後も、なかよし班や児童会活動だけではなく、様々な教育活動を通して、クラスや学校だけではなく、地域や社会の一員としての自覚を持たせていきたい。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」のは88.9%で、さらに「友達関係に満足していますか」においては92.6%が肯定的回答をしていた。学校生活の中で、友達と関わることの喜びや楽しさを実感している児童が多いためであると考えられる。今後も児童同士が関わりながら生活できるような取り組みを行っていきたい。
- 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」の質問では、96.3%の児童が肯定的回答をした。学校の敷地内にある、まごころ広場の活用だけではなく、めぐまれた自然環境を生かした教育活動を展開できていることが考えられる。今後も、生活や理科、総合的な学習の時間だけではなく、自然環境を活用した様々な教育活動を展開していきたい。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付くことができていますか」では、85.2%の児童が、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」では、88.7%の児童が肯定的回答をしており、県の平均と同程度か上回っていた。授業で話し合い活動を積極的に取り入れたためと考えられる。今後も、協働的な学びを通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めていきたい。
- PCやタブレットなどのICT機器の活用についての質問項目では、すべての項目で県の平均を下回った。デジタル機器を授業や学習で効果的活用できていないことが伺える。調べ学習で使うだけではなく、自分の考えを表現したり、友達の意見を共有したりする場面や、発表スライドを作成して発表を行うなど、授業の中で積極的な活用していきたい。また、自分のペースで学習をする際にも、効果的に活用されていないことから、家庭でも学習のためにICT機器が使われるような取り組みを行っていきたい。
- 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間以上2時間未満と答えた割合が70.4%と一番多く、宿題以外の家庭学習の時間が少ないことが考えられる。家庭学習において、自主学習の意識が低いため、家庭と連携を取りながら指導していく。
- 「学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の質問では、全く読まないと答えた児童が40.7%と県の平均を12.6ポイント上回った。学校の休み時間だけではなく、家で進んで本を読む習慣が身に付いていない児童が多いことが考えられる。積極的に読書に取り組めるように、図書室や図書委員会の活動の紹介や、長期休み等の機会で本の紹介を行うなど、本に親しめるような活動を通して、読書の習慣を身に付けていかせたい。
- 「課題の解決に向けて自分で考え、自分でから取り組んでいましたか」、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問では、県の平均を大きく下回っていた。自分から課題を見つけたり、自分の考えをまとめたりすることに苦手意識を感じている児童が多い。今後は、児童が自分の考えを言葉で書く機会を積極的に設け、そこから新たな課題を見つけられるように支援をしていくなど、授業の改善を行っていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成 ～書く活動を通して自己表現し、生き生きと学び合える指導の工夫～	・学び合いの場を工夫した表現活動の充実 ・自分の考え方を持ち、書く活動を通して自己表現できる児童の育成	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますかの質問の肯定的割合は、85.2%である。 ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫して文章を書いていますかの質問の肯定的割合は、74.0%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科にも市の平均正答率より低い事項があり、基礎・基本の取得が十分とはいえない。家庭学習では、平日や休日の学習時間が短い児童が多く、学習の習慣化が十分ではない。	・基礎基本を定着させるためのきめ細かな指導 ・校内研修、授業力向上による「分かる授業」の展開・授業改善 ・適切な宿題や自主的な学習内容・方法の提示による家庭学習の習慣化	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示とまとめ・振り返りを行う時間の確保を図った、児童一人一人が分かる授業研究を行う。 ・漢字・計算検定を実施し、一定期間、漢字や計算の練習に取り組ませることにより、学習を継続する力を養うとともに、学ぶ意欲の向上を図る。 ・家庭学習強化週間を年2回設定し、「学年の目標学習時間家庭学習へ取り組む」ことをを目指す。 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携を図る。